

# 総合人間科学 英 語

## 1 構 成 員

|                          | 平成 26 年 3 月 31 日現在 |
|--------------------------|--------------------|
| 教授                       | 1 人                |
| 病院教授                     | 0 人                |
| 准教授                      | 1 人                |
| 病院准教授                    | 0 人                |
| 講師（うち病院籍）                | 0 人 (0 人)          |
| 病院講師                     | 0 人                |
| 助教（うち病院籍）                | 0 人 (0 人)          |
| 診療助教                     | 0 人                |
| 特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む） | 1 人（外国人教師）         |
| 医員                       | 0 人                |
| 研修医                      | 0 人                |
| 特任研究員                    | 0 人                |
| 大学院学生（うち他講座から）           | 0 人 (0 人)          |
| 研究生                      | 0 人                |
| 外国人客員研究員                 | 0 人                |
| 技術職員（教務職員を含む）            | 0 人                |
| その他（技術補佐員等）              | 0 人                |
| 合計                       | 3 人                |

## 2 教員の異動状況

中安 美奈子（教授）（H19.8.1～准教授; H25.4.1～現職）

Kuramoto, Christine D.（H25.4.1～現職）

O'Dowd, Gregory V.G.（外国人教師）（H14.4.1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

|                         | 平成 25 年度  |
|-------------------------|-----------|
| (1) 原著論文数（うち邦文のもの）      | 2 編 (0 編) |
| そのインパクトファクターの合計         | 0.00      |
| (2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター | 0 編       |
| そのインパクトファクターの合計         | 0.00      |
| (3) 総説数（うち邦文のもの）        | 0 編 (0 編) |
| そのインパクトファクターの合計         | 0.00      |
| (4) 著書数（うち邦文のもの）        | 0 編 (0 編) |
| (5) 症例報告数（うち邦文のもの）      | 0 編 (0 編) |

|                 |      |
|-----------------|------|
| そのインパクトファクターの合計 | 0.00 |
|-----------------|------|

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakayasu M: Chaucer's Historical Present: A Discourse-pragmatic Perspective. In: Sikorska L, Krygier M eds. Evur Happie & Glorious, ffor I hafe at Wiß Grete Riches (Medieval English Mirror 9), Peter Lang, Frankfurt am Main, etc., 41-60, 2013. (ERIH score: 10) (ERIH: European Reference Index for the Humanities)
2. O'Dowd GVG: Problem-based Learning's Role in the Development of Life-long Learning Skills in Medical Practitioners. Reports of Liberal Arts Hamamatsu University School of Medicine, No. 28, 11-25, 2014.

インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

#### 4 特許等の出願状況

|              |          |
|--------------|----------|
|              | 平成 25 年度 |
| 特許取得数（出願中含む） | 0 件      |

#### 5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

|                    |              |
|--------------------|--------------|
|                    | 平成 25 年度     |
| (1) 文部科学省科学研究費     | 5 件 (280 万円) |
| (2) 厚生労働科学研究費      | 0 件 (0 万円)   |
| (3) 他政府機関による研究助成   | 0 件 (0 万円)   |
| (4) 財団助成金          | 0 件 (0 万円)   |
| (5) 受託研究または共同研究    | 0 件 (0 万円)   |
| (6) 奨学寄附金その他（民間より） | 0 件 (0 万円)   |

(1) 文部科学省科学研究費

- ・ 中安美奈子（研究代表者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「中英語における時空間体系」（80万円）（継続）
- ・ Kuramoto CD:（研究分担者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「専門職（教員・医師）養成におけるサービス・ラーニングの教育効果に関する実証研究」（50万円）（新規）
- ・ Kuramoto CD:（研究分担者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌芽研究「外国人模擬患者を全国医学部の面接技能教育に活用する方法の研究」（30万円）（新規）
- ・ Kuramoto CD:（研究分担者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「自己主導型学習能力獲得のための、医学部6年一貫したモデルカリキュラム開発研究」（20万円）（新規）
- ・ O'Dowd GVG（研究代表者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

## 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

## 7 学会活動

|                 | 国際学会 | 国内学会 |
|-----------------|------|------|
| (1) 特別講演・招待講演回数 | 0 件  | 0 件  |
| (2) シンポジウム発表数   | 1 件  | 3 件  |
| (3) 学会座長回数      | 0 件  | 1 件  |
| (4) 学会開催回数      | 0 件  | 0 件  |
| (5) 学会役員等回数     | 0 件  | 0 件  |
| (6) 一般演題発表数     | 4 件  | 1 件  |

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Ashida R, Kuramoto CD: Expanding the Use of English-speaking Simulated Patients in Japan. MGH Institute of Health Professionals Standardized Patient Symposium, Boston, USA, March 2014.

#### 5) 一般発表

##### 口頭発表

1. Nakayasu M: Spatio-temporal Systems in *A Treatise on the Astrolabe*. 8th International Conference on Middle English (ICOME 8), University of Murcia, Murcia, Spain, May 2013.
2. Nakayasu M: Chaucer's Sky: Space, Time and the Astrolabe. 12th Medieval English Studies Symposium (MESS 12), Adam Mickiewicz University, Poznań, Poland, December 2013.
3. O'Dowd GVG: Teaching Life-long Learning Skills: PBL in Action. 第 39 回全国語学教育学会年次国際大会，神戸コンベンションセンター，神戸，October 2013.

##### ポスター発表

1. O'Dowd GVG: Teaching Life-long Learning Skills: PBL in Action. 第 39 回全国語学教育学会年次国際大会，神戸コンベンションセンター，神戸，October 2013.

### (2) 国内学会の開催・参加

#### 3) シンポジウム発表

1. Ashida R, Kuramoto CD: Providing Authentic Experiences to Develop Medical Interviewing Skills—Well-trained English-speaking Simulated Patients (SPs) Available for All Universities. Japan Association of Medical English Education, Chiba, July 2013.
2. 芦田ルリ, Kuramoto CD: 外国人模擬患者の養成と活用—英語での医療面接実習の効果と全国への普及. 第 45 回医学教育学会，千葉大学，July 2013.

3. Ashida R, Kuramoto CD: Medical Interview with an English-speaking Simulated Patient—A Read Encounter. USMLE Step 2 Workshop, 徳島大学, February 2014.

4) 座長をした学会名

1. Kuramoto CD: Japan Association of Medical English Education.

5) ポスター発表

1. Nakayasu M: Pragmatic Analysis of the Spatio-temporal Systems in Chaucer's Prose. 第12回浜松医科大学シンポジウム, 浜松医科大学, March 2014.

## 8 学術雑誌の編集への貢献

|                   | 国 内 | 外 国 |
|-------------------|-----|-----|
| 学術雑誌編集数（レフリー数は除く） | 0 件 | 0 件 |

## 9 共同研究の実施状況

|            | 平成 25 年度 |
|------------|----------|
| (1) 国際共同研究 | 0 件      |
| (2) 国内共同研究 | 0 件      |
| (3) 学内共同研究 | 0 件      |

## 10 産学共同研究

|        | 平成 25 年度 |
|--------|----------|
| 産学共同研究 | 0 件      |

## 11 受 賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 中英語における時空間体系（中安美奈子）

本研究の目的は、中英語における時空間体系を歴史語用論の視点から体系的に分析することである。時空間体系には語用論的なファクターが密接に関わっているにもかかわらず、歴史的なデータにおいては、語用論的な分析はいまだ不十分であると言わざるをえない。時制や人称代名詞といった時空間に関する文法範疇や形式に着目し、言語行為等のミクロなレベルにとどまらず、談話等のマクロなレベルに踏み込んだ分析を行い、こういったファクターが相互にどのように関連しているのか、また、談話においてどのように展開するのかについて検討している。

2. Corner of Love Japan（USAの医療活動NPO）の日本代表（学生をニカラグアに引率するため）（2009年2月より現在）（Christine D. Kuramoto）

科研C「専門職（教員・医師）養成におけるサービス・ラーニングの教育効果に関する実証研究」の共同研究者として国際サービス・ラーニング in Nicaraguaを本学の授業（1単位）として実施している。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. 「医学部生ら X マス行事」中日新聞、2013 年 12 月 20 日.
2. 「小児病棟でクリスマス会」静岡新聞、2013 年 12 月 21 日.